
2004年度中間決算 説明会

2004年11月19日



三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長

小高 英紀

取締役

専務執行役員

中村 博海

取締役

専務執行役員

喜嶋 安彦

執行役員

畑 仁

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2004年度中間決算等
説明
2. 質疑応答

配付資料

- ・説明スライド コピー
- ・決算説明会参考資料
- ・MGC CORPORATE
DATA BOOK 2004
- ・2004年度 中間決算短信
- ・ニュース・クリッピング集
- ・アンケート用紙
- ・封筒

中間決算説明

連結 2004年度中間実績 総括

2004年度 中間期実績

【単位:億円】

	実績	前年同期	増減
売上高	1,901	1,644	257
営業利益	139	45	94
経常利益	173	84	89
(ウチ持分利益)	(54)	(60)	(6)
税前利益	149	73	76
当期利益	118	60	58

期末総資産	4,854	4,646	208
有利子負債	1,784	1,854	70

コメント

- A) 売上高は前年同期実績比+257億円。単体売上増のうち、7割は数量要因。
- B) 石化原料を中心に原料価格が急騰
- C) 上期は原料・仕入れ価格上昇によるコスト増を販売価格上昇でカバー。
- D) 海外メタノール会社の持分法利益はほぼ期初予想通り。メタノール市況高水準の影響は下期に。
- E) 期初想定外の特別損失として、電材事業構造改善費用(11億円)、情報機能材事業構造改善費用(8億円)など。

天然ガス系化学品カンパニー中間実績

2004年度 中間期実績

対 前年実績 【単位:億円】

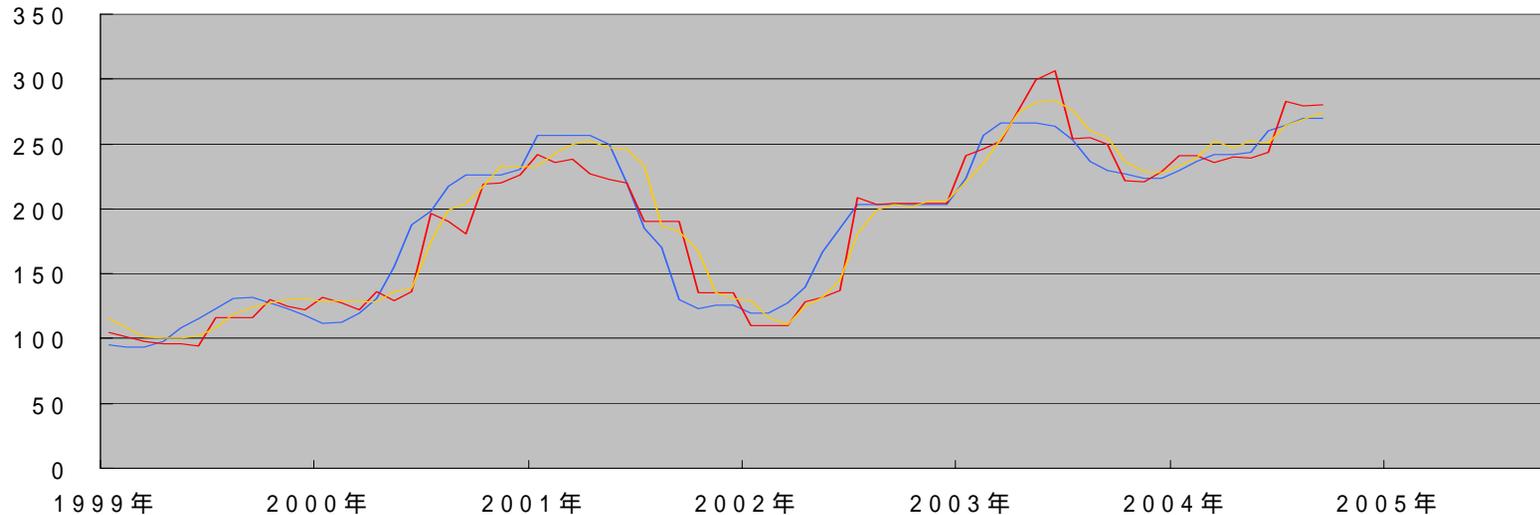
	実績	前年	差異
売上高	497	441	55
営業利益	27	6	33

コメント

- A) 赤字製品の黒字化
- B) フル生産、フル販売
・原料高は製品価格へ転嫁
- C) 海外メタノール会社の持分法利益はほぼ期初予想通り。(連結対象1～6月)
メタノール市況高水準の影響は下期に。

メタノール価格の推移

メタノール 国際市況 (US\$/MT)



コメント

- ・ 新プラント立ち上がりの遅れ
- ・ 引き続き堅調な需要
 - ・ 中国、アジアの成長
 - ・ 欧米も堅調
- ・ 米国天然ガス価格の高値推移
 - ・ 原油高による影響

下期に向け・・・

- ・ 年内高値継続。年明け以降、軟化要因はあるがほぼ横引きが現実的な見方。
 - ・ 年末に新設プラント稼動
 - ・ 05年央までに大型プラント稼動

Mitsubishi Gas Chemical Co., Inc.

実績値：USGULF、EUROPE・・・各種ニュースターより JAPAN・・・通関統計より

MGC

天然ガス系化学品カンパニー通期予想

2004年度 通期予想

対 前年実績 【単位:億円】

	今回予想	前年	差異
売上高	1,028	920	108
営業利益	51	16	35

コメント

- A) MMAは下期定修。上期に比べて収益低下するものの、期初想定に対しては増益。
- B) ポリオールは引続き好調
- C) メタノール国際価格の高値推移により、海外メタノール会社の持分法利益は当初想定よりプラス。

芳香族化学品カンパニー中間実績

2004年度 中間期実績

対 前年実績 【単位:億円】

	実績	前年	差異
売上高	510	395	115
営業利益	34	21	14

原料キシレン価格 【単位:円/kg】

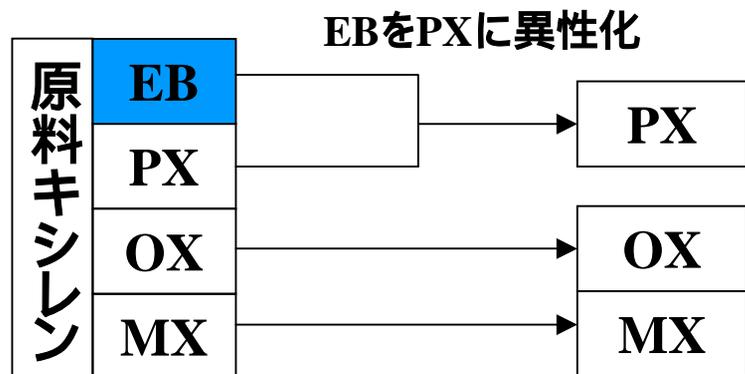
上期	実績	前年	差異
公示価格	59	45	14

コメント

- A) 原油価格高騰を受け、原料キシレンの価格も高騰。
- B) PX-PTAは需要が堅調なため販売価格上昇。PX-原料キシレンのスプレッドは期初想定並み。
- C) 予想外のベンゼン市況上昇により、副生粗ベンゼン販売による原価控除額増加。
- D) OX-フタル酸系製品も値上げ努力で原料価格高騰による利益減少幅を抑える
- E) 特殊芳香族は一部ユーザーの在庫調整などの影響はあるが、ほぼ計画線
- F) 売上高の対前年増額のうち、2割弱はAGIC子会社化、会計処理変更による。

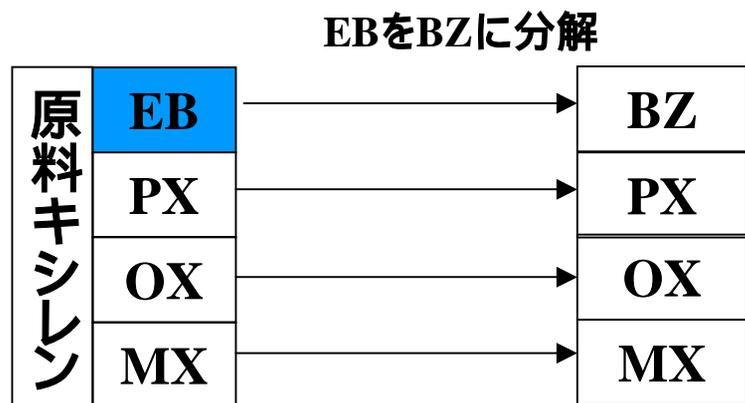
PX製法転換に伴うBZ取引について

生産体制変更前



- 03年度上期以前はエチルベンゼン(EB)をパラキシレン(PX)に異性化していた。
- 新日石との協業により、新日石から水素の供給を受け、これによってEBを粗BZに分解したものを新日石に販売する体制に変更した。
これにより、生産性の効率化を図った。

生産体制変更後



ベンゼン市況の異常な高騰に伴い収益化した

芳香族化学品カンパニー通期予想

2004年度 通期予想

対 前年実績

【単位:億円】

	今回予想	前年	差異
売上高	1,045	824	221
営業利益	63	48	16

原料キシレン価格

【単位:円/kg】

下期	今回予想	期初想定	差異
公示価格	72	54	18

コメント

- A) 原料キシレン価格は直近の水準と同レベルで引続き高水準を維持
- B) PX-PTAは下期も引続き堅調を見込む。
- C) ベンゼン価格も引続き高値を想定。
- D) 特殊芳香族は米国MXナイロン向けMXDA出荷開始、上期にあった在庫調整などの終了を見込む。
- E) 売上高の対前年増額のうち、2割弱はAGIC子会社化、会計処理変更による。

機能化学品カンパニー中間実績

2004年度 中間期実績

対 前年実績 【単位:億円】

	実績	前年	差異
売上高	442	389	53
営業利益	34	10	24

コメント

- A) 過酸化水素は、新規工業用途、無塩素漂白用途などで需要増加。価格水準も維持。
- B) エレクトロニクス向け化学品は半導体・液晶部品・プリント配線板等の好調を受けて堅調。
- C) J/Vへのヒドラジン事業移管による売上減少分も上記製品でカバー。
- D) 合成樹脂はIT・デジタル分野、自動車分野を中心に堅調な販売量。原料価格の上昇は販売価格に転嫁中。

合成樹脂事業

原料価格が高騰

ポリカーボネート

原料・・・ビスフェノール - A

ベンゼン価格の高騰を受け国際市況は3割の上昇

ポリアセタール

原料・・・メタノール ホルマリン が原料

一方、需要自体は堅調

ポリカーボネート

- IT・デジタル分野、自動車分野を中心に堅調な販売量
- シート、フィルムも液晶用需要が大きく増加

ポリアセタール

- 昨年増設したタイポリアセタールはフル稼働
- 国内需要も高水準

現在までの原料価格上昇分については見通しをつけた。
課題は更なる原料価格上昇への対応。

機能化学品カンパニー通期予想

2004年度 通期予想

対 前年実績 [単位:億円]

	今回予想	前年	差異
売上高	889	807	82
営業利益	73	40	33

コメント

- A) 下期も基本的な基調は上期と変わらず。
- B) エレクトロニクス向け化学品はお盆明けより半導体・液晶一部メーカー・用途に一服感が見られ、上期実績に比べ下期はマイナス。但し、期初想定よりは若干プラス。
- C) 下期の合成樹脂は期初想定並みの販売量を見込む。ポリカーボネートの値上げを織り込む。

特殊機能材カンパニー上期実績

2004年度 中間期実績

対 前年実績 [単位:億円]

	実績	前年	差異
売上高	278	244	34
営業利益	49	17	33

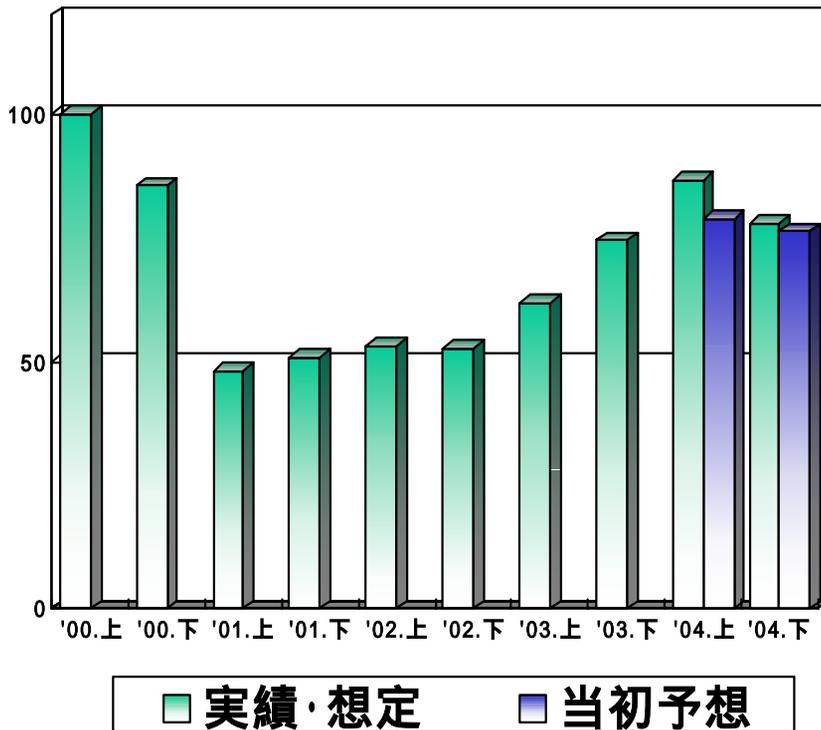
コメント

- A) 携帯電話、デジカメ、デジタル家電などの好調を受け、電子材料は引続き堅調。数量的にも当初予想を上回る。
- B) 電子材料についても原材料価格が上昇しており、値上げで転嫁中。
- C) エージレスはほぼ予想通りで推移。

電子材料販売推移

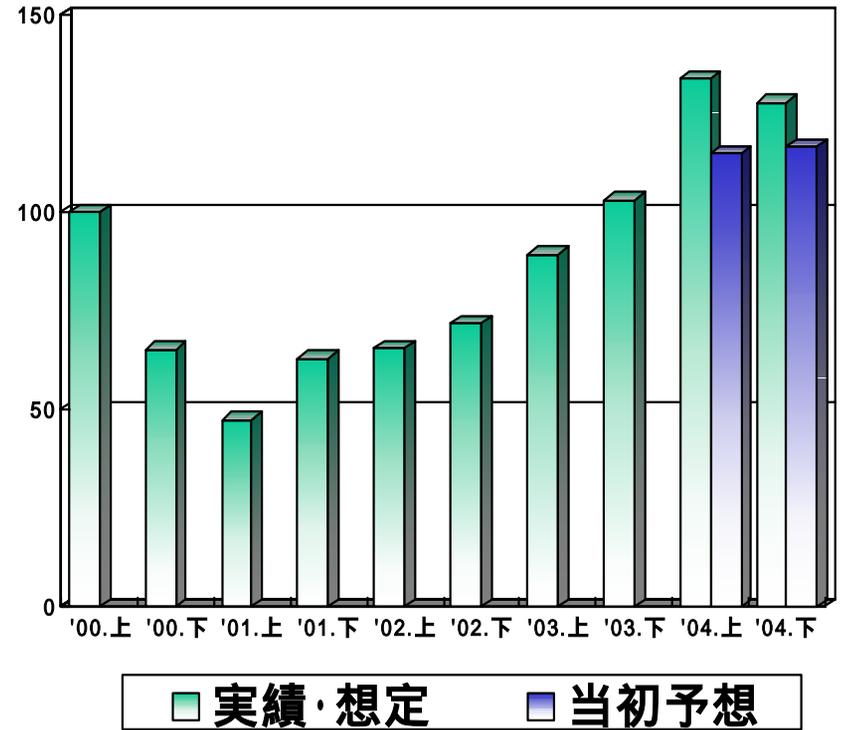
電子材料 売上高

('00年上期の売上高を100とした指数)



B T系銅張積層板 販売数量

('00年上期の販売面積を100とした指数)



Mitsubishi Gas Chemical Co.,Inc.

特殊機能材カンパニー通期予想

2004年度 通期予想

対 前年実績 【単位:億円】

	今回予想	前年	差異
売上高	553	507	46
営業利益	91	50	41

コメント

- A) 電子材料はデジタル機器に一服感。
- B) 但し、受注残があることなどから大きな崩れはなく、下期売上高は当初予想と同程度の水準を想定。利益率向上。
- C) エージレスはほぼ予想通りの推移を見込む。
- D) 情報機能材は、下期ガーネット膜で当初予想並みの回復を見込むものの、その他の需要は依然低調。

連結 2004年度 通期予想

2004年度 通期予想

【単位:億円】

	今回予想	前年実績	増減
売上高	3,840	3,407	433
営業利益	265	149	116
経常利益	305	189	116
(ウチ持分利益)	(93)	(92)	(1)
税前利益	250	150	100
当期利益	185	106	79

コメント

- A) 下期も上期と同様の基調。
- B) 原料価格の動向とその価格転嫁の可能性がリスク要因。
- C) 下期の主な特別損失として探鉱費(12億円)、情報機能材事業構造改革(10億円)、電子材料構造改善(4億円)などを見込む。

中期計画の進捗状況(構造改革)

事業構造改革

- 生産集約: 電子材料生産を東京工場からエレクトロテクノ社へ移管
- 事業提携: ヒドラジン事業J/V、各種製品生産の受委託
- 合理化: 人員削減(今期末累計348名。目標469名)、物流費削減
- 既存事業強化: エレクトロテクノ社増強、北米MXナイロン、中国POM

組織再編

- ・ R&D資源の集中(4研究所体制から3研究所体制へ)
- ・ 工務業務、受注業務のセンター化

赤字製品対策

対策対象製品 製品損益

2002年度実績	・・・	70億円
2004年度想定	・・・	22億円(48億円の改善)

来期以降の展開

増強設備の稼動開始

- ・ エレクトロテクノ社 増設
- ・ MXナイロン北米プラント
- ・ POM中国J/V

メタノール事業の海外強化・拡充

- ・ サウジアラビア増設 (年産170万トン)
- ・ ブルネイ 新規事業 (年産 85万トン)
- ・ 中国重慶 新規事業 (年産 85万トン)

中国展開の本格化

- ・ 上海事務所設置 (4月)
- ・ 過酸化水素製造拠点新設の具体化
- ・ メタノール誘導品展開のFS

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(佐藤、竹田)

TEL 03 - 3283 - 5041

FAX 03 - 3287 - 0833

<http://www.mgc.co.jp/>

E-mail: infoir@mgc.co.jp

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。